

富良野協会病院 RESPECT プロジェクト

サッカー界のリスペクトプロジェクトに賛同し、病院内で職種や立場を超えた有志によるRESPECTプロジェクトを実施。挨拶や感謝の推進、多職種交流会、学習機会の提供を通じて相互理解と尊重の文化を醸成。患者と医療従事者、職員同士が互いを大切にする職場を目指し、より良い医療の実現と離職防止につなげている。

取り組み内容

実施期間：2025年7月から現在進行中

実施場所：富良野協会病院内

取組内容：

このプロジェクトは一切の束縛をなしとしました。病院の委員会組織ではなく、職種、肩書き、年齢に関係なく、賛同する有志が集まって進め、完全自由参加としています。

具体的な取り組みとして、

- 1、RESPECTの第一歩として、『あいさつ』と『ありがとう』の推進、という当たり前のことから始めました。ポスターを作成して院内各所に貼り、職員の意識改革を呼びかけました。
- 2、医療従事者は1日に何回も手を洗います。患者さんもトイレの後には手を洗います。笑顔を忘れないように、笑顔絶やさず運動をすすめ、院内のトイレと洗面台の鏡にポスターを作成して貼りました。特に女性は、手を洗った後に前髪をチェックするということで、前髪大事！笑顔も大事！とアピール。
- 3、普段交流のない職員同士で話をする多職種交流会を開催しました。
- 4、JFAのセーフガーディング eラーニング サッカーの安心・安全・幸せが守られる環境のためにを視聴。『サッカー』を『病院』に置き換えてとらえ、病院での RESPECTについて改めて考える機会をつくりました。



活動を開始してまだ1年ですが、「挨拶が自然に交わされるようになった」「ありがとうという言葉聞く機会が増えた」「院内の空気は確かに変わった」という実感が広がっています。更に、「退職しようと思っていたけれど、辞めないでここで働き続けたい。という人が増えた」などと少しずつこのプロジェクトの成果が芽生えていると感じています。

日本サッカー協会は、「フェアで強い」日本サッカーを目指して、互いを『大切に思うこと』、リスペクト・プロジェクトを推進しています。病院も同じ。患者が安心して質の高い医療を受けられる。医療従事者が安心して誇りを持って働ける。医療現場に携わるすべての人たちがお互いを『大切に思うこと』は、より良い医療を行うために絶対に必要なことです。医療従事者と患者、医療従事者同士が、立場や年齢にかかわらず、お互いを大切に思い、RESPECTすることが、より良い医療環境、職場環境を作っていくために必要と考え、このプロジェクトを始めました。現在、全国の多くの医療機関が直面しているさまざまな問題（離職、多職種連携の課題など）の背景には、RESPECTする気持ちが不足していることが潜んでいると感じています。サッカーと直接関係のない医療現場で RESPECTを推進し、それがやがて全国の医療機関、そして社会全体に広がっていく。その先駆けとなることを目指しています。

